

Japanese man In NY (ニューヨーク生活)



(Photo: Times Square in 2008)

《さようなら…42丁目のポルノ街》

自分がまだニューヨークに住んでいた頃、42丁目のタイムズ・スクエアからポート・オーソリティーが立ちそびえる8番街までの地区は、「ポルノ街」と呼ばれ異様に危険な雰囲気を感じていた。数件の小汚い映画館に、派手なネオンやサインで装飾されたアダルト・ショップ、ヌード・シアター、インチキ宝石屋などが立ち並び、麻薬取引や犯罪が氾濫する地区としても有名だった。昼、夜を問わず、性に飢えた男たちがうろつき、日が暮れると売春婦やドラッグの売人らにき姿も目立った。

1991年にアメリカ一周一人旅で、初めてニューヨークを訪れた際に、ポート・オーソリティーから出るバッファロー行きのグレイハウンド・バスを待つ間、時間つぶしのために、この界隈にあった小汚い映画館で『ターミネーター2』を見た。

危険な場所とは把握していたものの、旅の疲れもあって、時間つぶしに街をフラフラとさまようよりも良いだろうと判断して足を踏み入れたのだが、館内は黒人やヒスパニック系の客が大半で、その他、薄暗い中でもまともではなさそうだと分かる怪しげな人たちの姿が目立った。シートのシミや床に散らばるゴミ。ちょうど真夏だったため、クーラーは入っていたものの、黒人特有の体臭や香水の匂いに混じって、汗や尿の匂いにも似た何ともいえないよどんだ空気が漂っていたが、我慢できないほどではなかった。

だが、館内のトイレの汚さは今でもはっきりと覚えている。上映中に一度だけ用を足しに行ったが、出くわした黒人客の背後や横からの怪しげな視線に緊張しながら、身構えるように素早くその場を後にしたのは言うまでもない。当時の映画館の入場料は、確か6ドルだったと思うが、場所柄のせいか、家族連れなどは勿論、まともな人間はいないようだった。結局、その時は何も危ない目に合わずに済んだが、友人の中にはこの界隈の映画館のトイレで黒人に襲われ、危うく命を失いかけたものもいる。今思うと、自分は単にラッキーだったのかもしれないが、懐かしい思い出もある。

ニューヨークに住んでからも、ウェイターとしてお世話になったレストランがこの通りから数ブロックの場所にあつたため、この界隈は年がら年中、昼夜を問わず普通に歩いていたのだが、そんなニューヨークの名所でもあった「ポルノ街」から一軒、また一軒と店が閉鎖され、赤や青や黄色などの原色の板で店の入り口を被われていく光景が目立ち始めたのは、自分がニューヨークを離れる少し前くらいからだ。

歴史的には、1981年に既存の古い劇場を修復・再利用して、新たな開発を加えて、荒廃したエンタテインメントの拠点を復活させようという「42丁目再開発プロジェクト」が発表されたものの、90年代前半まで開発計画は思うように進まず、1993年にディズニー社がニューヨーク州とニューヨーク市から2,500万ドルの低利融資を受け、アムステルダム劇場を修復し、ミュージカルに使うこと、そして、ディズニー・ショップを開業することを発表して以降、徐々に状況は変化していった。そして、ジュリアーニ前ニューヨーク市長が主導した「タイムズ・スクエア再開発」で、多くのいかがわしい店が閉鎖され、また、撤退して周辺地区に移されるなど、42丁目界隈の治安も大幅に向上していった。

1997年以降ニューヨークの街には訪れていないが、2000年には映画館を改造したクラブで、偉大なるブルースの巨人＝B.B.キングがオーナーのクラブ「B.B. King Blues Club & Grill」がオープンし、2006年に亡くなったジェームス・ブラウンをはじめ、リトル・リチャード、ジョニー・ウィンター、オーティス・ラッシュ、ビーチボーイズなど、名立たる伝説のミュージシャンたちも出演しているようだ。また、この通りには「吉野家」もあるそうで、「ポルノ街」と呼ばれた当時からすると驚くような変わり様だ。

街の影の部分の部分を排除し、新しくクリーンな街づくりをしていくことは、治安の面ではとても良いことかもしれないが、それまでニューヨークの名物として活躍していたものたちの姿や、名所として親しまれていた建物や場所が消えていくことは、何となくもの悲しい気がする。この「ポルノ街」もそうだが、1980年代に姿を消した、文字通りニューヨークの名物であった落書きだらけの地下鉄もその一つだ。時代的にこの落書きだらけの地下鉄を目にするのはなかったが、一度だけでも乗ってみたいかっと思っていた。

ちなみに、落書きだらけのニューヨークの地下鉄の映像は、偉大なジャズ・ベースマン＝チャールス・ミンガスが音楽を担当したManny Kirkchheimer 監修によるドキュメンタリー映像『Stations Of The Elevated』(RHAPSODY FIRMS)で目にする事ができる。未だビデオしかその存在は確認しておらず、DVD化や国内リリースされていないが、ミンガスの音楽をバックに落書きだらけの地下鉄の姿を追いかけ、ジャズと70年代のニューヨークの街並みが醸し出す独特の雰囲気が最高の異色作品だ。

その他、懐かしいニューヨークの街並みの記憶は、ニューヨークを舞台にした映画などで見ることはできるが、ニューヨークという街には影の部分があったからこそ、世界中のどこの都市にもない独特の活気やパワーがあったような気がする…。あの42丁目異彩を放っていた「ポルノ街」は懐かしい記憶と共に、ニューヨークの風景の一部として今でも心の中に刻まれている。